

繪本通俗三國志 四編 四



繪本通俗三國志四編卷之四

目錄 明治十一年文藝

孔明定計畧四郡

趙雲計取桂陽城

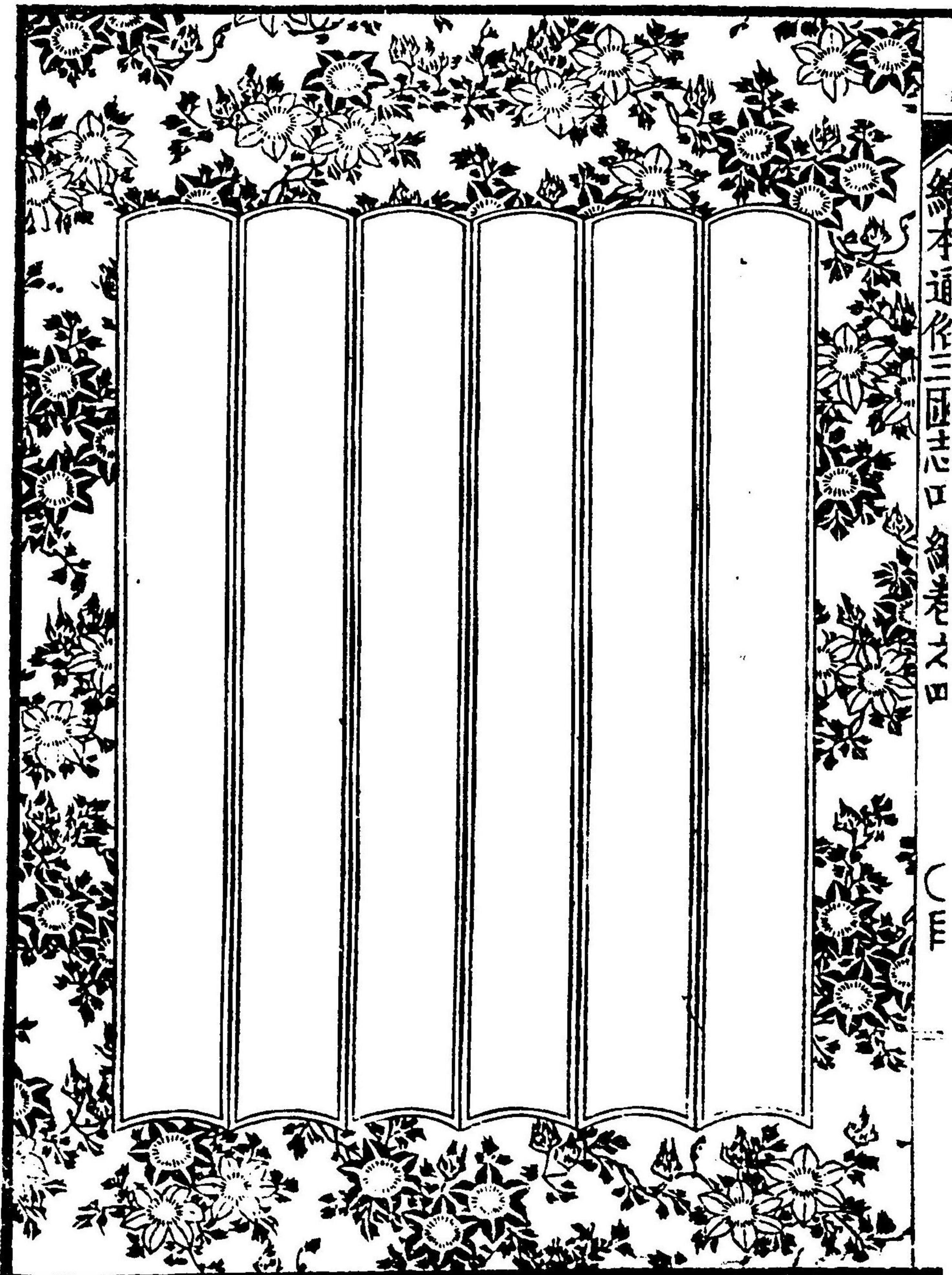
黃忠魏延獻長沙

孫權大戰合肥城

繪本通鑑三國志四編卷之四

孔明定計界四郡

玄德ハ孔明が計を立て。事故あく。荊及南郡襄陽三郡の
城とり取るの内をあざ喜びとも。長久の計を議
まち一人きみ生荆及長久の計をあわひて。ようへん賢人と
求めて。問ゆ人といふ諸人をもとまで。山陽の人。伊籍字機
伯あり。玄徳昔の恩をあわひ。あく散て宣ひりて。絶ぐへ
あうべき賢人をもとめ。伊籍が曰く。荊襄の世家兄弟五人。
その内一人が絶きたる大質人。眉の毛多く白。そ
れに襄陽宜城の人。馬良字は季常。兄弟五人。才名
あり。世の称。馬氏の五常。白眉最良。とりえり。その弟馬

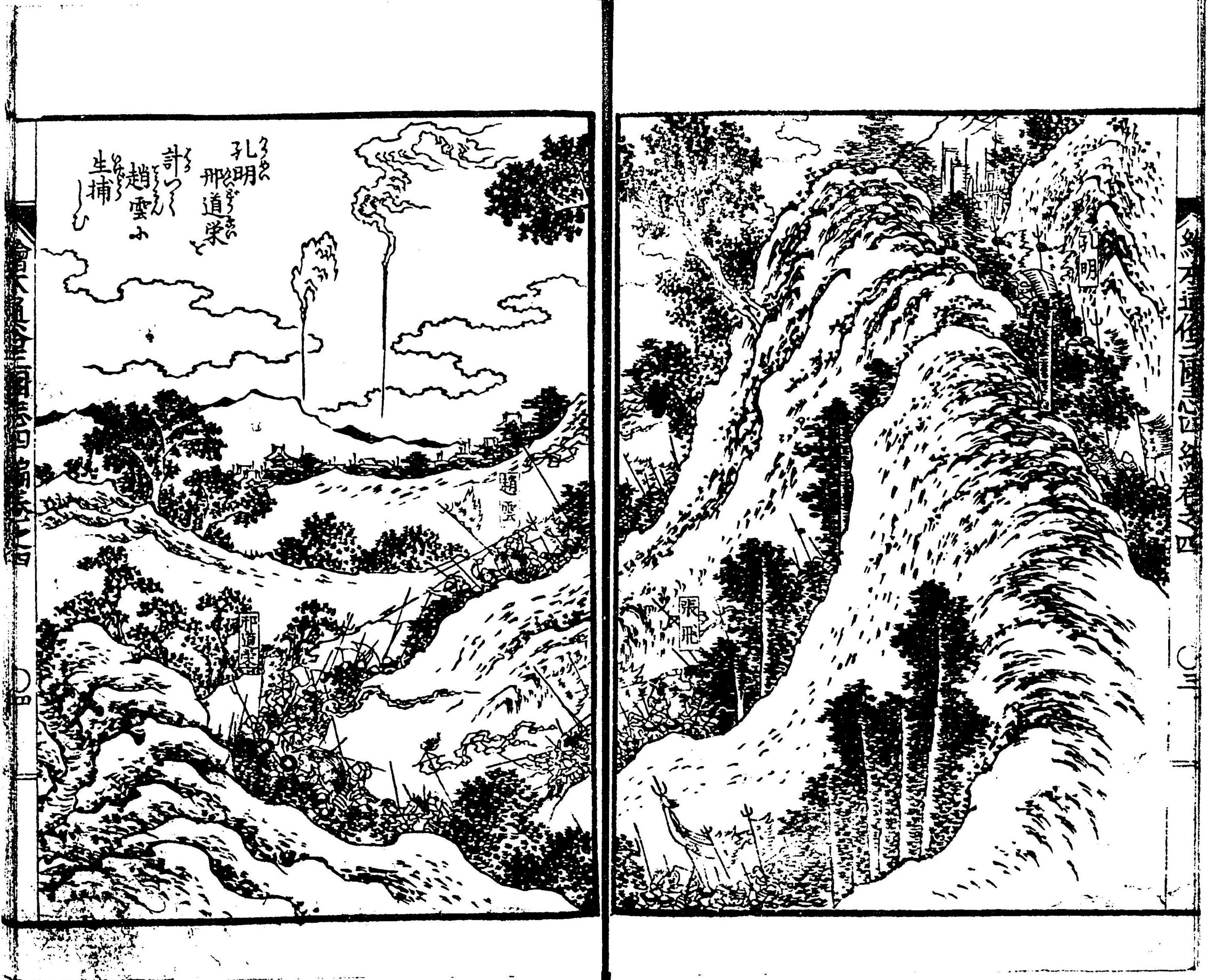


幼常。玄德入深く軍書と明めたり。あへて召してあちこちをぎる。玄徳使とまじておれをきる人。馬良急ちまわり。礼をうなぐ。と高坐。署。玄徳長久の計と問ひ。人々。馬良が曰く。『しま襄陽城へ敵と受の地』。久く守り。幸ひ劉琦。病ふ。卧ゆ。劉琦。うちの城の主と。曰も大將とたゞ。ねむの事。とあく固く守ぐ。都へ表を奏す。劉琦と荆収の刺史と。民のふと攘そ。そのうち南の四郡を攻取。金銀とあり。兵糧と財。根本を固め。長久の計ある。玄徳問く。曰く。『ま四郡をもつてある人を。馬良が曰く。武陵の太守。金旋。長沙の大守。韓玄。桂陽の大守。趙範。零陽の大守。劉度。も一かの四郡を得。魚米の便と通す。』。『ま長久を

。か効常。又深く軍書と明めたり。名をもむる。玄徳使とよせとまねをひき。馬良急ちもきた。礼とて高坐す。著玄徳長久の計と問ひ。馬良が曰く。いま襄陽城へ敵と受の地うそ。久く守りが幸。劉琦いま病。田より劉琦をあらの城の主と。旧の大將とたゞねあつた。固く守り。都へ表と奏。劉琦と荊州の刺史と。民のふと棲む。南の四郡を攻取。金銀とあら兵糧を貯え。根本を固せ。長久の計。あら玄徳問く。曰く。いま四郡とある。人を。馬良が曰く。武陵の太守。金旋長沙の大守。譖玄桂。陽の大守。趙範。零陽の大守。劉度。もうまの四郡を得。魚米の便と通じて。ものあら長久ある。

とあらへや某が内より邢道榮とて力大不當の大將あり。重き六十斤の大鐵とほり。あまをもひて戰を孔明より。關羽張飛より。とぞく首を取る劉度をもひて。邢道榮とて一平らき。邢道榮とての身が能くわざとて胸中の武藝。ひそむの廣頗李牧とて劣らずと勇力。劉度とて力もとつし。あらの身はさへとて。劉延と精兵一万余騎と付邢道榮と。先手とて城下を三十里をあまとて山と水と陳とれる。さうかどく孔明兵とてかへを。だいひよ陳と取むひままで邢道榮馬とせ。大音あびて反國の賊。あくぞも界と侵まと。よべり。孔明中軍うり一輛の四輪車と。一坐せ頭と轎と。ひだか。身と鶴筆と被て手と羽扇とゆもる。邢道榮と指す。

あらき。南陽の諸葛孔明あり。曹操百万の勢力と率ひきたり。ひきぬ。ヨリたゞかづの計とゆちひく。一人も生と回らざのあく。汝ホアヘぞとみやう。降恭せざるよ。べりル。邢道榮大ふく。自く赤壁。ユ曹操と破り。かの呂岱の周瑜が計あり。汝あよとて詐ぞ。人によくとて。孔の口と動せと。大あく斧と打振馬と乘て討と。孔明車と回て。内より入陣門と閉り。邢道榮とて。近づき。ル。陣勢。又左右よりかけ。二手より。外走る邢道榮を。中央をのぞむ。一族の黄ある旗。統擁して走り。走る。あらき。孔明あうんとて。馬とがんとて。の菟山の腰をまねる。黄ある旗と。引回して。忽ち陣勢とひだ。張孔明。



車の上へぎりと。一人の大將矛をよみがへ。馬をどもせ。まきひと
張飛あつて名乗その声雷のどく。だまよ邢道榮と討とうる。
邢道榮怒り四馬リて斧をよひて二三合戦ひるを叶ふと
走りルまく張飛もよひて追う。邢道榮馬を打て走らる。
両方す。伏兵一度よ起り。赤色人攻たり。一命とも戦
ひまく。逃き生たる有。一人の大將行前とよびき。常
山の趙雲あり。あくまで降泰せよとより。邢道榮のが
べきまく。馬す。下そ地をひきぬばく。趙雲土をのり。陣中よ回
り。まく。玄徳大よひ。軌て奔よと宣へ。孔明きくまよと
ぞ。邢道榮又問て曰く。汝も一劉延と生取きたる。まよと
かと。汝を重く用ひ。邢道榮白く即時よ行そ。生取きたる。
孔明が白くいうある計をよひ。生捉べき。邢道榮が白く其の
放りゆべ。よく計をよまん。夜よへて劉延が陣へ攻來たま。
其のあとす内。應せん。劉延も。擒とあらへ。劉度がのし
か降參をぐ。玄徳の白く。うぶが言ふ。計あらん。まゆく首を
刎す。孔明が曰く。邢道榮ハ詠や。まと大將をあらざる。まく計
みあながと。今夜よ。劉延と生捉あらむ。まく用ひ。之
と。即時。放り。回り。まく。邢道榮まく。陣向。劉延ま
みへて。右の趣と語る。劉延が白く。いがく。敵と拒ぐべき。邢道
榮が白く。敵の計と統く。却く計とだ。今夜陣の敵と兵と
伏をき。陣中ゑひあく。旗あくと立孔明夜討あらざる。か
色と生根。劉延大よ喜び。兵と伏く。相待まく。案のこ。其夜

の二更。二年の敵軍。とぐく火炬をもつた。うち又寄る。陣屋
又大刀をもつて。劉延をもととる。一とどよどり。喊て走る。飛道
榮と二年。金をもと。封と出る。一び寄手の勢をもぐ。又逃走る。劉
延勝とのいと。たりあきう。追うけ敵。行方あく逃げまぐ。我陣ふ
犬のさりたち。滅んと。早と。引回し。又忽ち陣屋の中より。
一人の大将。その声雷のとく。燕人張飛あり。名乗て。火乃
光の内す。斬そくる。劉延をもと。騎をもと。又邢道榮とよ
きが陣。とも。火掛ねまぐ。打奔ぐ。却く。孔明が陣。又攻うる。敵
の備えさせ。却をもと。又とく。十里をもと。來り。且
趙雲一軍をもと。路をもと。金をもと。一鎗。又邢道榮。突殺を。劉
延。あらわふ。馬を打て逃ぐ。又。張飛後。すう。もと。拂り。

引組。ひど。縛来る。劉延地。ひど。もと。甚しき。本心。えあらず。邢
道榮が所為。あう。と。孔明。あら。解免。一酒。中
と。ゆき。回。ひ。を。死城。と。も。降。と。一。さあ。く。べ。卯時。又踏破
と。ゆき。零陵城へ入。あら。も。劉延。又見へ。孔明。ふ徳。や。林
一卒。み。城。と。生。と。父子。と。も。降。恭を。孔明。と。あ。も。劉度。く。初。の。ま
と。く。郡守。と。と。兵糧。軍中。み。平。と。と。劉延。と。旗下。の大將。と。と。
郡縣の民。と。ぐく。治り。又桂陽城。と。取。と。と。計。と。詳商
を

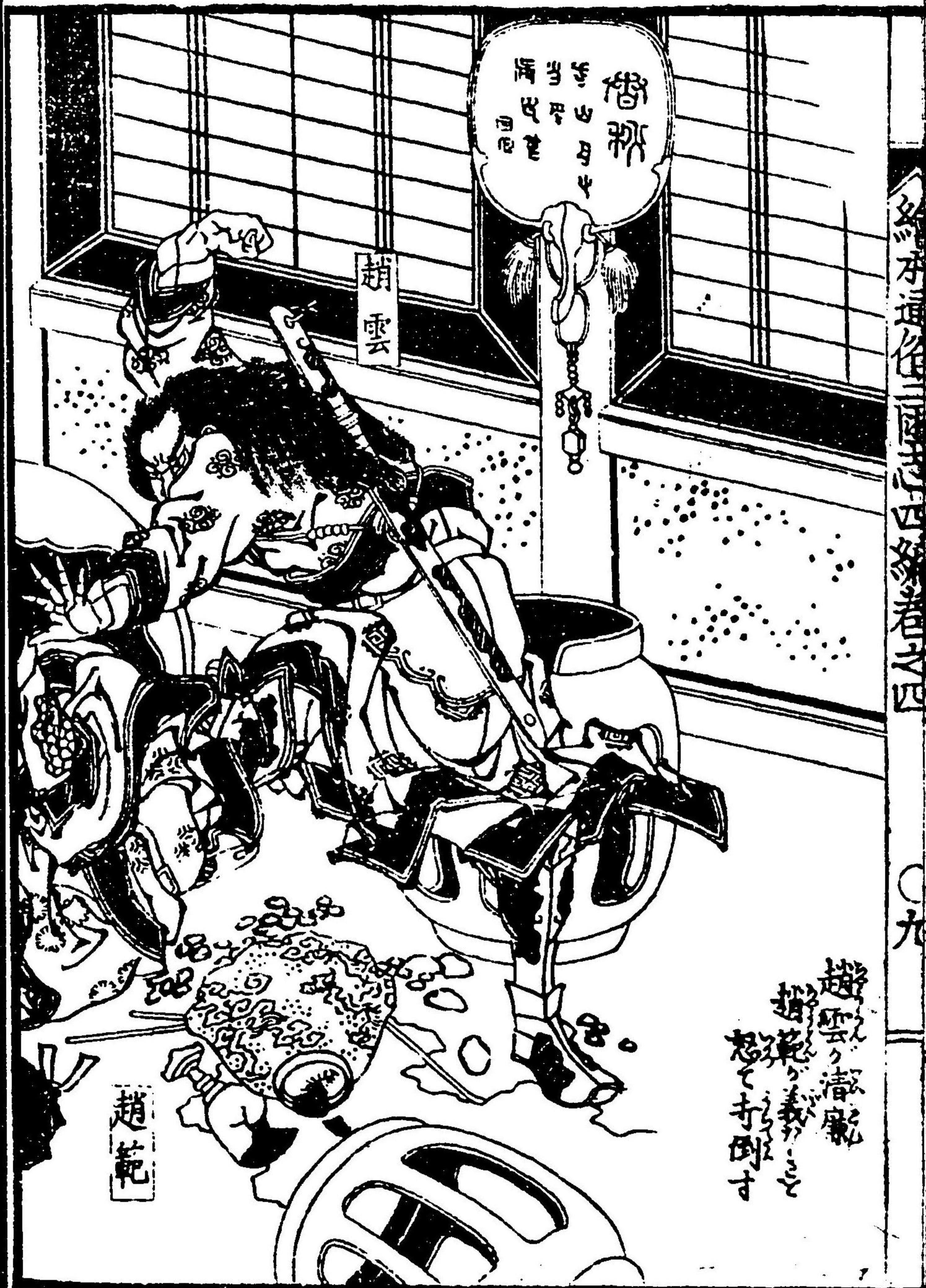
趙雲計取桂陽城

れぬ。ま。ぎ。零陵郡。と。と。治り。ひ。ま。一。バ。玄徳諸將。又問。と。曰く。ま。又桂陽
城。と。東。ん。と。わ。と。た。ま。へ。る。ま。行。人。趙雲。が。白。其。孫。が。笑。と。

行く。張飛とどりて至りて曰く。甚る行ひ難い。行人孔明が曰く。二人あらましをもあらず。あましに早く合ひたまばた。趙雲と用ひべ。張飛が曰く。某ゆ行へんとぞ称す。ああ人用ひゆ。孔明が曰く。悉くまづ聞とりて行ゆ。趙雲張飛もうべと。闖とりて。はと趙雲先より手を拈りき。張飛大腹を立てて曰く。其他人の助と。かのまど。たゞ三千余騎を引いて忽ち。桂陽城を取る。趙雲が曰く。某もたゞ一人三千の勢を。城を攻め。打負。軍法で彼もうち。さうがけ。張飛。いわく。服せざる者と玄徳大をもて退く。趙雲が。よろび。三千余騎を引いて。桂陽をもくす。由さきが。沙汰あり。桂陽の太守趙範。あひて。どえか。急を諾。將とあく。計と議と。元来手下の陳應。鮑龍と。二人の大将。あく。力の常超く。陳應よく。又。はく。鮑龍へ。虎と。尋ねて。二人ひとしく。生て。曰く。玄徳。漢を反く。逆賊。あく。と。云。曹節を敵と。某。名。伏。先手よ。生。捉。太。守。趙範が曰く。と。聞。劉玄徳。漢の天子の皇子。よ。と。云。明討。深く。关羽。張飛の勇。あ。況。や。よ。来る。趙雲。と。ゆ。の。う。や。當。陽。の。長。坂。を。曲。日。孫。が。百。方。の。勢。が。け。破。れ。と。人。あ。き。石。行。が。と。ゆ。ホ。ひ。ぐ。拒。ぐ。と。得。あ。う。と。ゆ。降。泰。と。べ。陳應。が。曰く。甲斐。あ。き。と。宣。と。れ。其。打。向。り。と。ゆ。趙雲。と。生。取。き。た。が。と。ば。そ。の。と。と。ゆ。降。り。た。す。趙範。が。も。と。得。と。陳應。と。大。將。と。三。千。の。勢。を。引。て。城。外。

陣と東せり。又趙雲大音あげて曰く。君
とおれ。一陣。又馬と牛。又趙雲大音あげて曰く。君
劉皇叔とおれ。又荆王の弟と。公子劉琦とたまはく。國中
の兵と安んじて。攻さへば降がる。陣應をもとめど。
笑ひある玄徳と。劉琦と。又人をもたせ。曹丕相手従へりと
呼び。又馬と。戦ひ五六合。又走りけり。
趙雲と。追来ると。陳應を回し。赤又と。あげ付だり。
趙雲と。用ひられ。左の手を受と。却と。陳應をあげ付する
と。陳應を身と避へと。趙雲が馬と。走りたり。長
臂と。陳應と。搦み。大地と。あげられ。走る江と。當る八
方と。散乱と。趙雲と。陳應と。縛り。本陣と。戻り。攻め。その
あいだ。敵を。首を斬。ヘル。刀と。けり。そ
の益。そのゆくよき。免を。城中と。太守趙
範と。降参を。わざと。城と。趙範と。見え。右の由と。告げ
聞の肩車が。頭と。城と。趙範と。見え。右の由と。告げ
られ。趙範が。白く。本す。降參せん。とり。攻め。戦ひ
と。あ。また。却と。右の。と。陳應と。追出。卒と。騎あま
りと。降參の由と。赵雲と。入へ。上賓。乃
礼と。おれ。故に酒と。おれ。酒數杯と。お
れ。趙範や。將軍。其と。あ。趙姓あり。お
て一家の好み。ある。あ。是の上へ。又兄弟の義と

ひまぐれ長く一家の交をあがへど。かゞひの年やかゞひの三人
同年より。趙雲四月を生みたり。是が趙範西畔。
兄とあどが同ド姉。生と同年同姓ある。いふもあひに喜ぶ
晚えとよひ相別き城中より。はぎの日趙雲とおゆき
されば趙雲たゞ五十余騎と率て。城を入る。郡中の百姓をま
香て焼て尺く道のたゞり生じ入る。趙雲四門を榜す
せし民と安んじ。趙範が府中入り。酒宴とあつて。おも
半酣。おとづれ。請どく後堂ひへ。趙雲の殷懃あつて
やうやく食醉り。と。趙範一人の美女と呼んで。おも
とも趙雲のまことえよ。身の素がき羅と着て。頬圓の色あつて。お
おもあつて。ある人ぞと問へ。趙範答へ。まことに其が趙雲だ
リ。おもかげ。趙雲が谷を改め。はくへて。敬ひる本と。趙範さへち
うの女を坐せよ。趙雲無用ありと止や。女を坐せよ。入
り。趙雲が曰く。御邊ひうあそびらう。く嫂と坐つて。趙範
笑ひて曰く。わる不思議の様あれ。将軍うあうとおわ
ふ。其が兄をどう世を辞す。三年とぞ。嫂年少く一と嘗め
ある。某常志うべき。婿があらぬと嫁して。嫂三
人の望ゆ。一の世と高名を取二の夫と姓同く。二の
夫武の才あらず。全くその三のやう。あるが。あらざれ
嫁人といふ。將軍を見。儀表堂にて。その名四海を振ひ
兄弟。同姓ある。あらざれ。たるのゆゑ。林が。おとづれ。嫂と將軍
の妻と。田舎の好と。おとづれ。趙雲眼をひき。坐て。衆と戸と



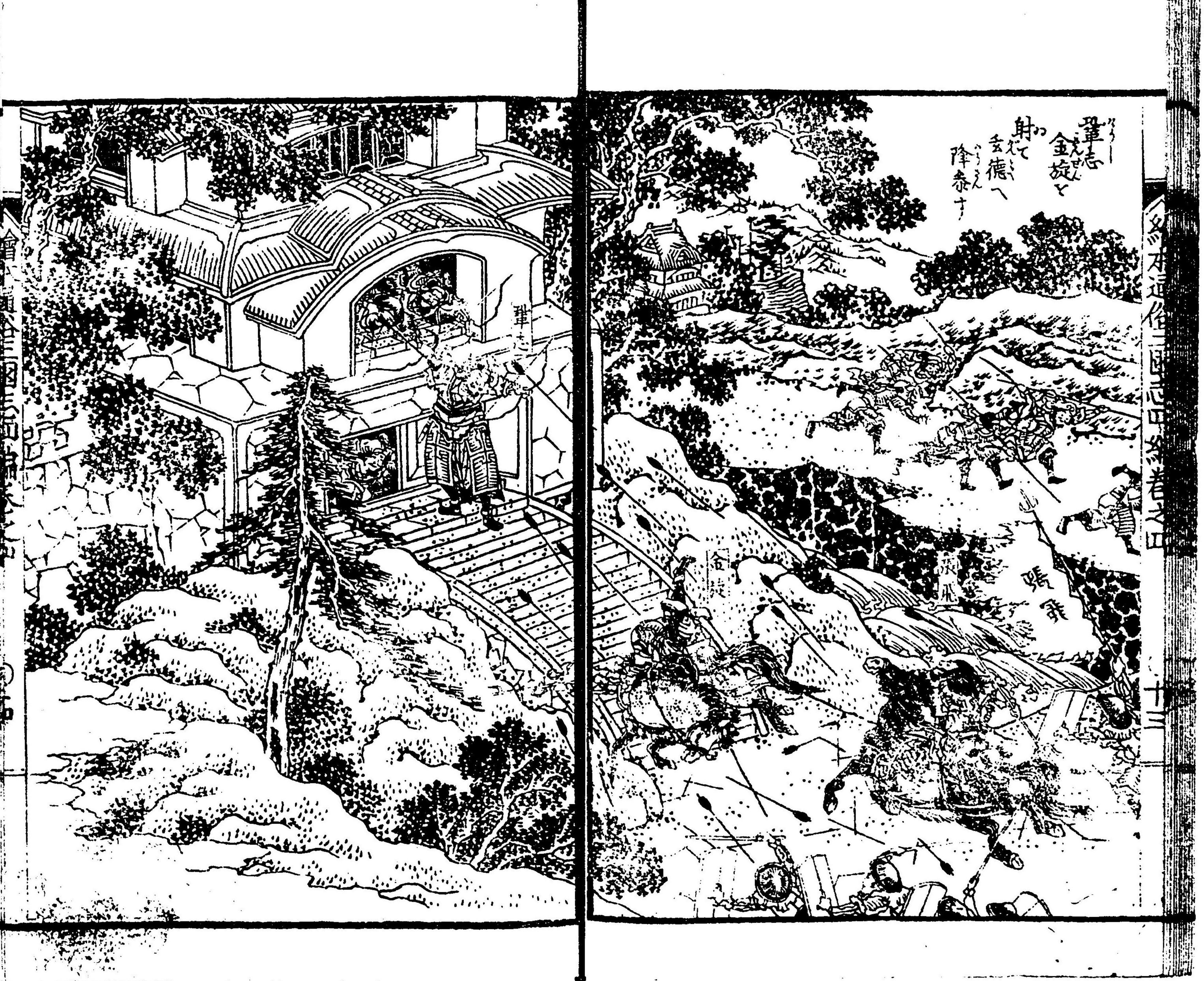
厲^{まげま}。汝^{あなた}が嫂^{あね}がまかづくが嫂^{あね}みづが。あんぞ人倫^{ドノリ}を乱^{ミダ}る。
きみど。わらひの外^{アラヒ}も怒り^{ハリ}ひき。趙範^{アヲバン}深く羞^{モカ}く面^{マスク}とあふ。吾^{オガ}
懲懃^{ハラハラ}ゆか^{ハラハラ}とあを^{アモ}あ。あくの人^{ハク}右無礼^{ハシタ}あつと。左右^{ハシタ}も目^メ加^{ヒテ}。
と。生^{ハリ}投^{ハリ}と見る氣色^{カクシキ}よ^{ハシタ}入^{ハシタ}。趙雲^{アヲモン}一^{ハシタ}を倍^{ハシタ}り。
手^{ハシタ}拳^{ハシタ}と固^{ハシタ}。趙範^{アヲバン}と打^{ハシタ}を。卒^{ハシタ}馬^{ハシタ}と乘^{ハシタ}。城外^{ハシタ}
よ^{ハシタ}生^{ハシタ}去^{ハシタ}。趙範^{アヲバン}頭^{ハシタ}を。趙範^{アヲバン}と打^{ハシタ}を。卒^{ハシタ}馬^{ハシタ}と乘^{ハシタ}。城外^{ハシタ}
人^{ハシタ}譙^{ハシタ}。陳應^{アツヨウ}が曰^{ハシタ}。趙雲^{アヲモン}大^{ハシタ}怒^{ハシタ}。出^{ハシタ}。追^{ハシタ}。大^{ハシタ}。
お^{ハシタ}お^{ハシタ}一^{ハシタ}軍^{ハシタ}。趙範^{アヲバン}が曰^{ハシタ}。云々^{ハシタ}一^{ハシタ}拍^{ハシタ}。云々^{ハシタ}勝^{ハシタ}とあた^{ハシタ}。
範^{ハシタ}龍^{ハシタ}が曰^{ハシタ}。云々^{ハシタ}二人^{ハシタ}詠^{ハシタ}。趙雲^{アヲモン}と降^{ハシタ}。陣^{ハシタ}中^{ハシタ}も相^{ハシタ}待^{ハシタ}。
太^{ハシタ}守^{ハシタ}兵^{ハシタ}。引^{ハシタ}。云々^{ハシタ}。某^{ハシタ}一人^{ハシタ}陣^{ハシタ}上^{ハシタ}。擒^{ハシタ}。陳應^{アツヨウ}。
曰^{ハシタ}。云々^{ハシタ}の計^{ハシタ}。かく好^{ハシタ}。云々^{ハシタ}。小^{ハシタ}勢^{ハシタ}。引^{ハシタ}。降^{ハシタ}。泰^{ハシタ}。云々^{ハシタ}。與^{ハシタ}。
くた^{ハシタ}五百騎^{ハシタ}とあた^{ハシタ}。行^{ハシタ}。そ^{ハシタ}夜^{ハシタ}二人^{ハシタ}趙雲^{アヲモン}が陣^{ハシタ}を行^{ハシタ}。降^{ハシタ}
泰^{ハシタ}の由^{ハシタ}を告^{ハシタ}。趙雲^{アヲモン}の中^{ハシタ}。云々^{ハシタ}の詐^{ハシタ}あると。云々^{ハシタ}金^{ハシタ}と對^{ハシタ}。
面^{ハシタ}。一^{ハシタ}三人^{ハシタ}地^{ハシタ}拜^{ハシタ}。趙範^{アヲバン}美女^{ハシタ}を。云々^{ハシタ}將^{ハシタ}軍^{ハシタ}のふと。云々^{ハシタ}将^{ハシタ}軍^{ハシタ}のふと。云々^{ハシタ}。
下^{ハシタ}。醉^{ハシタ}後^{ハシタ}首^{ハシタ}と取^{ハシタ}。曹操^{アツカイ}送^{ハシタ}。云々^{ハシタ}と計^{ハシタ}。其^{ハシタ}二人^{ハシタ}將^{ハシタ}軍^{ハシタ}の德^{ハシタ}と
あ^{ハシタ}。手^{ハシタ}勢^{ハシタ}引^{ハシタ}。降^{ハシタ}。泰^{ハシタ}と。云々^{ハシタ}。趙雲^{アヲモン}詠^{ハシタ}。云々^{ハシタ}喜^{ハシタ}。
酒^{ハシタ}と。云々^{ハシタ}。前^{ハシタ}後^{ハシタ}。告^{ハシタ}。云々^{ハシタ}二人^{ハシタ}と。醉^{ハシタ}。一^{ハシタ}忽^{ハシタ}。云々^{ハシタ}帳^{ハシタ}下^{ハシタ}。
泰^{ハシタ}。云々^{ハシタ}。陳應^{アツヨウ}。趙範^{アヲバン}。首^{ハシタ}と刎^{ハシタ}。手^{ハシタ}勢^{ハシタ}五百人^{ハシタ}。酒^{ハシタ}と。飲^{ハシタ}。刑^{ハシタ}。
物^{ハシタ}と。あた^{ハシタ}。罪^{ハシタ}の本^{ハシタ}の二人^{ハシタ}と。汝^{ハシタ}ホ^{ハシタ}。有^{ハシタ}のう^{ハシタ}を。も^{ハシタ}。
云々^{ハシタ}計^{ハシタ}。あた^{ハシタ}。後^{ハシタ}。あう^{ハシタ}と。賞^{ハシタ}。云々^{ハシタ}。諸^{ハシタ}軍^{ハシタ}。
く再^{ハシタ}拜^{ハシタ}。趙雲^{アヲモン}と。五百人^{ハシタ}と。先^{ハシタ}手^{ハシタ}と。三千余騎^{ハシタ}。

一人ひまむき無益の人とある。たゞ三千の兵を引く。武陵郡との取
太守金旋。ひれはうん。持きたうん。孔明。人喜び。さる。趙
雲打起とた。か。桂陽城。と。う。あら。あら。軍法。う。も
う。も。軍令状と書置り。御邊も又是の。どくも。もへどい。おれ
ば。張飛。されば。ち。軍令状。う。き。三千余騎を率。し。武陵城
へ。發向を。

黃忠。魏延。獻長沙

張飛三千余騎を引く。武陵城より來る。由早馬急を告げ
太守金旋。大驚。即時よ兵をそろへ城を上て戦へん。と
きよ從事翠志。と。う。や。の。さん。み。生。と。う。と。諫。ゆ。玄德。大難の皇
叔。す。へ。仁義。と。う。天下。あらがる。張飛。されば。世の。慶。相た

きよ。よ。あら。き。ま。う。甲。と。卸。と。降。參。と。ひ。ひ。金旋
を。あ。い。怒。り。汝。敵。内通の。ふ。あ。う。ま。汝。首。と。刎。と。武
士。と。命。と。討。せ。ん。り。と。諸。人。う。か。ん。で。一。命。と。精。變。い。ま。戦
ひ。う。る。大。將。と。切。き。ん。き。味。方。の。な。や。不。吉。あ。り。と。の。終。も。
金旋卒。と。翠志。と。追。退。と。ひ。ひ。城外。二十里。と。あれ。と。陣。と
と。張。飛。が。勢。と。坐。わ。と。り。張。飛。は。元。来。性。躁。あ。う。と。せ。と。が。て。も。
あ。う。人。ね。大。將。あ。ま。が。敵。の。た。し。ふ。と。免。角。の。問。き。あ。と。と。と。
と。マ。オ。と。ま。と。と。斬。と。う。る。金。旋。大。音。あ。げ。と。兵。と。ま。と。戰
へ。や。と。ひ。ひ。り。ま。と。手。下。の。大。將。と。あ。怕。ま。と。一。人。も。坐。う。ま。の。あ。せ。ま
ば。是。非。あ。く。馬。と。牛。と。戰。ひ。と。ま。ま。と。張。飛。が。か。き。叫。と。戰。雷
の。ど。く。あ。う。と。膽。と。ひ。う。と。色。と。失。と。逃。と。張。飛。兵。と。ま。と。



れうちの金旋を攻め城中へ入る。とまことに矢倉の上より兩の降りて矢を射つけ翠華志城上に立あつたが、汝天の時とあがめにあがめの敗きとされ、民を殺すと云ふ。玄徳は降りて、城も果たさずして兵を射る金旋面を射られ馬を走らかれたを語けると軍士首をかぶせ、張飛を献ぎ、翠華志門とひらひととり、く降參へりき。張飛を以ち城に入りて民を殺して翠華志門と便とし、桂陽城を遣し、玄徳の由を報ぎ、玄徳を入れて武陵みきなり翠華志門と太守とし、三郡を以て合ひ、内深く喜び、書簡を荆歎の城を遣して、関羽の喜びを告ゆ。関羽回書をして、三郡を以て治りて、趙雲、張飛大功で立たり。君おへ兄弟の情をあわせむべく某は長沙郡を攻させることあるを

東へ向ひてのびとんと玄徳を喜び即時又張飛を荆歎へはる。関羽はうそと城を守らしめり。関羽の意と見て、中の勇と喜び、とくにやうに來山で玄徳を見し。孔明が曰く趙雲、桂陽城を取、張飛、武陵城を取、とあるまゝ月日三ヶ月あり。長沙郡の太守韓玄は大歎病の大將よとが、勢あり。南陽の人よと黄忠字は燕、外とひきよとと劉泰を事、中郎将たりしが、いま韓玄が手を属し。年とて六十あまりとて、髪鬚とぞく白とひだる。力は大ある。刀を使へ方夫不當の勇めり。をあち湖南の領袖あつてうろこへ敵となり。御邊りもかへゆるがよろしくて勢を立て立つて、関羽が曰く、軍師あつて他人

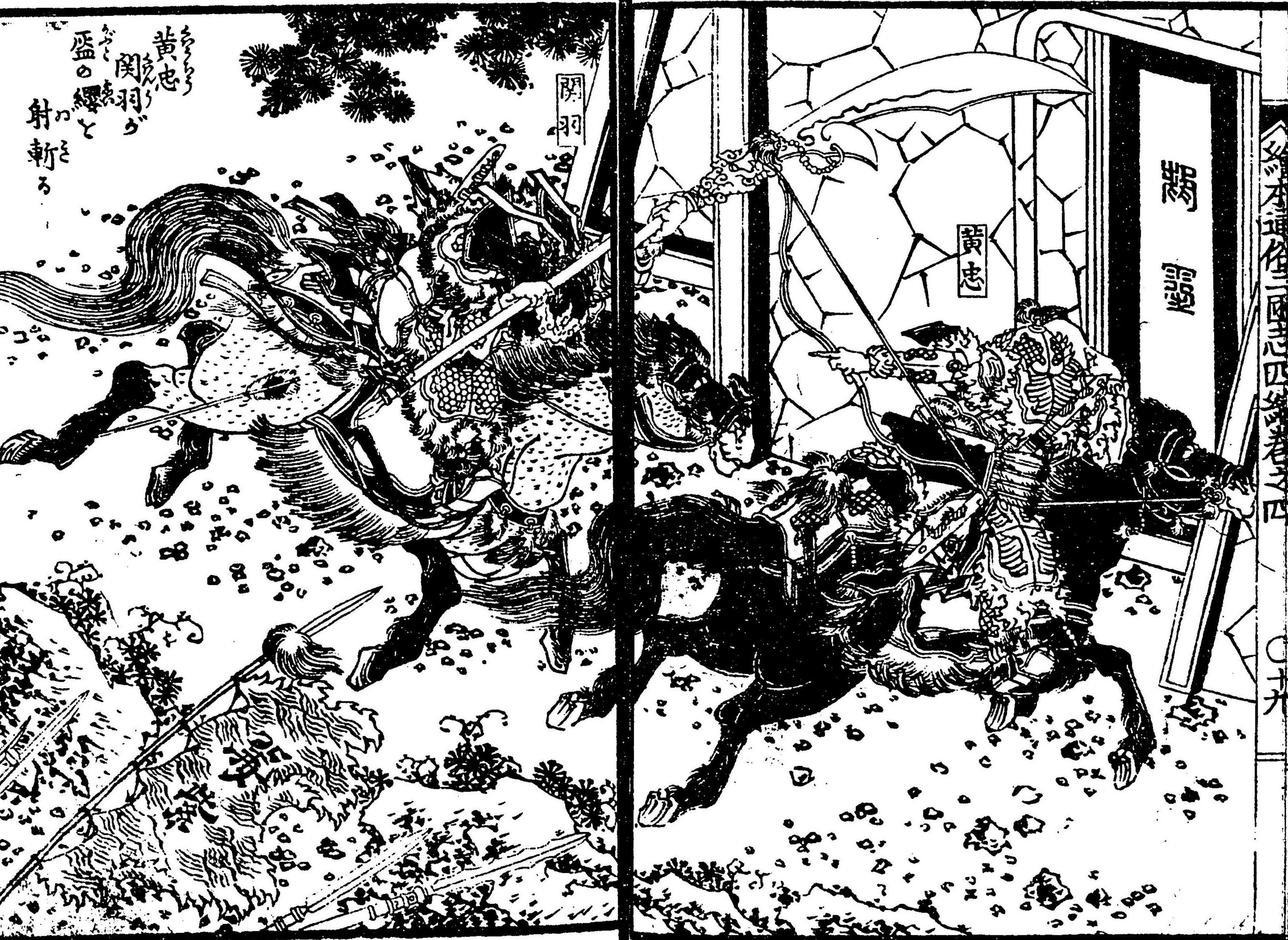
の腕と称して自己の威や勢いをもて量み一人の老武者ある
ぞとの如きを足りぬ。某三年余騎を借だ。手勢五百騎と
あらかじめ黄忠韓玄が首を取きたく。玄徳の曰く無用く
安あらかじめ軽くせんとあり。関羽曰く。某も一二千
借だ。と勝る甲斐あつて手勢が五百騎と予て。卒に
よ長沙とてかかる。孔明とて玄徳より。関羽の平生上れ
る人を下す。人をもむかし。黄忠が軽くせんと云う
あらかじめ。君が行。関羽之力をそぐへ。や
玄徳がすむと。跡をばひり打躬す。長沙の太守韓玄。元
まき付た。賢人ともかひかとおなじと。崇
のたか。蜀の日。關羽が攻来る。蜀の老將黃忠
とよんべ計。議。黄忠が曰く。まゆる。御心を告へらる
る。某例の大刀と大弓とを以て討て生る。敵千人をかか
げ。千の首と取へ。一人をもたゞ。万の首と取へ。と。一人をもみ
生へ。その度の戦ひ。老將軍生の。某も。生
と。關羽と生殺された。諸人の多くは。管軍。校尉。楊齡
あり。韓玄大喜び。ゆく恩賞と。あんぐる。楊齡欣然と
え馬との。兵と。城外を突き。もと。馬。烟のあが
きと。陣と。相待。大音。あく。圍り。馬。関羽打寄
ると。ひと。刀と。ゆく。切く。ゆく。楊齡鎧と。ひねり。馬。やまと
へ。と。一合。ゆく。関羽。斬。そと。それ。まことに残る勢力。四角八
方。散乱と。韓玄。まことに。おどし。駿まし。おどし。黄忠。よど

大將と城と並く戰ひて、高櫓の下に大將門を
る。關羽ハ勝てぬと、城近くにて、馬をあわせり。年老いたる大將門を
騎を後まわし、力もひきだされ、馬をあわせり。來る間に、黄
忠が名とあり、あぐらをかいて来る。關羽も笑ひて見、我
にまわらざるを、汝が鬚頭首を取る。黃忠大々怒り。力もまへ
て討へたり。あるて戦ひ百余合。勝負をわんべど、太守
韓玄失倉庫のびて、黃忠が失ふべくと、相手一鐘をあ
くへて、軍を收められ。黃忠ありぞとて、城を入り、關羽も十
里を走り、陣をさりとけ。黃忠年老なりとりへど、武藝をと
み凡あらば、今日百余合の戦ひよ。ひしも疎ろいと
はぎの日早天。兵糧を遣て、城近くにて、太守韓
玄高倉庫のびて、黃忠生よと下知をまわし。黃忠數百騎をす
く橋を渡り、喊どりて造りて。又關羽と馬とをすく戦ひ、六
十合をと。勝負の色えど、西軍尽く、金みだき、喊て渡
り鼓を打ひまじ。關羽馬を飛んで、外走る。黃忠のまへと追
き。後で又へり、關羽馬前足を折て。主の地上まで立
たり。關羽刀をあわせり。馬をあわせり。馬とをまき入る。後
と。無体な伐人も情あつて、馬とをまき入る。後
が一命をなさん。再び馬との代り。馬とをもて、勝負せよとて

れを黄忠から城へ走り入る。韓玄行とあらへまくある
ゆき人そよだづくのるす黄忠が曰く。あの馬久しく陣の辺に立たず
ゆく失あり。韓玄が曰く。汝が弓と射る百度をあせば百度あた
る。明日あくまで橋の辺に立てどあせもよめんせ。たゞ一矢、関羽で射
よと。青毛名馬をあくへる。黄忠心の中よしむかはまく今
日またじく討るべくと関羽精め。幸ふが一矢、よき
ひきぢや明日がまく射されまじ。射されまじ。老の命々
ながくあくひきぢや。射されまじ。射されまじ。
ひきぢや夜もまじ。明方さとまじ。関羽身をもせせたり
う。太守韓玄のまじ。黄忠とあくひ敵とあくひもせせし矣
射殺せとひくとく。黄忠もれなく兵とまく城と出たがひ
よ威風と相撲し。又三十余合戦。ハ黄忠詠坐りと走り。サ
と。関羽もくと追来。黄忠敵近くあり。アリモトアリモト
く。ぎぞ弓とて。張せよ。取田をまく。殺せり。情と
感。ト。弦をうつとひじうつと。関羽身をそばかと避ひ
が矢をきたらざり。又まく。追うくる。黄忠入愁と鳴
し。それを関羽まく。矢のせたがふと辟。矢のせたがふと見えて。と
で。又整の辺まで追うけたま。黄忠引回して兵と射る。其
矢。関羽が盜の櫛。みあへり。前ある勢一度。又喊を作り。ハ
関羽舌をあらへ。矢と帯と逆回り。そして。黄忠が弓術
ひうへ。名を得。養由が白歩。又楊の葉と穿孔巧め。又
盜と射。又矢をと駆。たゞ。昨日の情をあわゆ人あふる。

とく。兵士も、もろに黄忠の敵の勢いを知る。城
中より回り、韓玄の外を怒つ。武士も、もろに
黄忠と呼んで、罵る。罪あるとひしるが、韓玄は
夫倉の怨を。三日があふご、合戦のやうとする。再
西日戦と決せむ。今日關羽が追来る。終而已とあらへ
て第三の矢。盛の繩を射た。昨日關羽がたまつて
とある。内通のべし。生置。あはず
後の禍をあたへなくて転じて。武士の命。城
外へ出た。諸人を諫へとおもひだ。韓玄は
り。も一諫らかのめぐら。同罪。もあらへとらるる。も
生きた人の一人め。武士も、率り生と首と転へと

あらね。勿むち一人の大將。力とひしるが、武士と転へて。黃
忠と大将。生と大音。わけ。黃將軍はまよ長沙の名將。
韓玄大逆無道。賢人を輕く。色と重く。も一黃
忠とあらへと。長沙の百姓と滅わざあり。志同き人を生
えさせた。とがひり。も。諸人をたまへて。面と重束のとて。自
朗ある。星と似たり。義陽の人と。魏延字は丈長と。本
へ劉表が大將なり。昔年。玄徳襄陽をきたり。また城
を生へ。徒りひとせー。その行末とあらへ。がたの筋折
とまじて居たり。と。韓玄がとその筋をひいて。常とよゆて用ひ
ざり。魏延刃とまじと。黄忠と。なむ。大脣ぬれ。あらへ
同志のあらへと熱ひ。殺百人を。城中の転へる。



黄忠再三とむき合ひをせらる。すがくう真先まきひとへ。太
守韓玄かんげんと一刀一を斬り死し。首くびをとて馬ばを打うちのり城じゆを出だす。関
羽くわを降おりしるを。関羽かんう大おほき喜び。さう城じゆ中なかに入いる。民みんを安
心あんじん。使つかせられ。黄忠こうちゆうとまねりふ。黄忠こうちゆうに病びやくを持もつて生うまふ。す。
関羽かんうをあへち早馬はやまとどめ。勝軍かつぐんのゆうと。玄徳げんとくと注進ちゅうしんをさの時
玄徳げんとくと孔明こうめいと馬ばとあへ。関羽かんうが軍ぐんの元もとあると。跡あとを追おきてからりきへる。前まへよりあがへる青せいき旗き。旗きを立たてやへ。一いっけの
鶴つる北きたより南みなみを指さす。乘のたり。三さん声こゑ啼いたく。さゞめさづめば玄徳げんとくの
日ひく。吉凶よきよし。孔明こうめい馬ば上うと占うみと。日ひく。長沙ながさとどける時方
す属ぞく。又良大將よしだいじょうと得とく。千せんの刺さと喜びと報ほうと
と。とよみ路よみじとひきだり。かとうとよみの刺さと。一人馬ばと鞭むちと
かへく。手てとくとせ來くわり。関羽かんうと長沙ながさの城じゆをうへ
黄忠こうちゆう細姫さいひ延のぶ尺しゃくとく降おり。告げよ。玄徳げんとくのうり
あへ喜びとぞ。長沙郡ながさぐんと入いりて令れい兵へいと合あ戰たたかひ。問と
黄忠こうちゆうと行ゆて禮れいとあへ。と。黄忠こうちゆう卒そつと
降おり。太守韓かん玄げんと氣きと求めく。城じゆの東ひがしとあへ。并あわて
徳法とくほうと出でり。民みんと治うめへ。關羽かんうと關羽かんう。又魏延ゐえんと
きだり。功ごうあへよ。と。玄徳げんとくとくと。孔
明こうめい勃然はつぜんと。怒いかりと。曰いわく。魏延ゐえんす。韓玄かんげんと代かへ
た。身みと寄よく。一日いちじも主君しゆきんとたのたのむ。人ひとと。かじく。殺ころす。降お
泰たいと。ある不義ふぎあり。諸しよ人の戒いましめと。首くびを斬ころす。と
。武士士と。引ひき。と。玄徳げんとくを。す。と。命めいを。請うけす。

降くる人と殺さる。大あつ不仁あり。魏延の功のり
て罪あり。あわゆ人を殺してと問ひ。孔明曰く。その謀を
食く。その主を弑す。不忠あり。子の國に居る。その地にて
は。不義あり。魏延が相手。脳の後。謀反の骨あり。
後方。魏延が相手。脳の後。謀反の骨あり。いま味方。魏延が相手。脳の
志。早。魏延が相手。脳の根。玄徳の白。人の心を
あるまじく荆歎と定むるの計。あらざる。魏延が相手。
べ。孔明をあらか細延。魏延が相手。魏延が相手。金と交換。
よく忠を尽して思て報。野心と被ふ。あらざると。魏
野心と被ふ。こと。早。魏延が相手。晚。魏延が相手。即時。魏
と別。人と別。旅。魏延が相手。魏延が相手。思。魏
劉表の姪。劉磐岩といふ人。攸縣を開居。居るよ。告
ル。玄徳使。魏延が相手。魏延が相手。長沙の大守。四
郡。魏延が相手。定。魏延が相手。師。收。魏延が相手。城。回。陳上。江
九郡。魏延が相手。過半。得。魏延が相手。内。大。主。魏延が相手。江
夏。巴陵。漢陽。吳の國。守。夏。侯。惇。襄陽。落。一
く後。樊。城。外。尽。玄徳。属。魏延が相手。油。江。口。公
安。うち。うち。城。繁。魏延が相手。兵。糧。金。銀。射。澤。主。魏
四方。賢士。あらざる。來。きたり。仕。公。大。諸。所。の。要。害。の。勢。を
け。用心。き。守。り。よ。

○孫權大戰合肥城

周瑜。柴桑。回。病。養。金瘡。甘寧。

巴陵城とあわせ、夷陵と漢陽城とあわせ、赤壁城
とあわせ。ある兵船とうちへと備えあさる程普の船軍勢と
投げ合淝を行ふ。呉主孫權が戦ひやうだけじもとの孫
權は赤壁を曹操と破てす。合肥の城を攻くまゝおの城へ
究竟の要害をうしろ上曹操は一大事とぞいへり。都へる
とだ張遼、李典、樂進三人の大将を罷置へり。まことに
十度戦へとりよどむが、一を勝負ひあへた。遠巻よ
志たるぞうり。さて孫權へ城とをあさる。五十余里より一陣
と東へり。浩る布よ程普大勢を引いたり。まことに孫權
よろこび。喜び。門みだりの兵士とる。魯肅も行ひ入り。孫
權馬さう下りまきとひく。魯肅ら馬さう乘じ下り。程人で
礼をあへぬ。諸將打續であせたり。孫權が魯肅をう
やかく見ゆ。あ大いにぞう。わく。孫權もう馬とあへ
て。魯肅とせぬ。陣門みだり。魯肅は馬さう下り。汝をもくへ
赤壁。曹操と破り。功をあがむ。足へり。魯肅
肅答へやく。君の馬さう下り。あへぞ某とあらむ。
せん。誰が人あらむ。とぞ。又大いに。孫權問へ曰く。あらむ。
がせば汝とあらむ。足へん。魯肅が曰く。私。君仁徳を海
ヌ布。く大歎を尽く。治め帝業を創め建くものと。安帝浦
輪。やう。某とあらむ。が。と。某が功をあらむ。と。孫
權馬上ひ。手をうちへた。まく。陣中みだり。酒宴をす
く。と。魯肅赤壁の勝軍を喜び。合肥城を攻むる。計を議す。

る。あくまでも張遼が方より戦書を下す。明日一勝負せんと云ふ。送りまじめ孫權怒て曰く。憎き奴。所為うれ。今日昧方。程普が大努力と引く。力を加りたるとき。明日一勝負せんと云ふ。
くるくるまれざるを耻じや。今まぐらの合戦で嘲弄され。その義あらべ明日の合戦。程普が生手と一人も用ひど。よが麾下の勢をさし。あらうと手柄をあらさへて。その夜の五更。兵糧を使ひ。程普が生手と陣屋をもよおして。その夜肥の城を攻める。城中をも敵ひをもよおしたう。討てたく。とく尽く。止むをとどく。辰の時。ひからく。兩軍とて、一回合。ひよ陣をとりむ。孫權が金の盃を朝日。ひよ。本懶賈華とひよ大将。左右ともあへ。三通の鼓を打て。矢合の鏑と射。ひよ。魏の陣中。門旗をひらげて。張遼中央。馬をひらげ。左は李典。右は樂進。まぐく甲そ。あがくとをも。張遼まが孫權を討てられ。孫權が後ず。一人の大将。鎧を提げて。飛んで坐たり。諸人をもよおす。呉の大將太史慈あり。張遼と馬をゆく。二人火とおもへて。戦ひ。八十合。ひよ。勝負を決せざるをも。又魏の陣。樂進。李典。大音あが。あくまでも金の盃。著たる。呉の孫權と。もよおの首を取て。赤壁を討て。八十三方人の仇を報す。ありとあざり。力とまじて。真横様。もうけたり。がその勢ひ。散然と。電光の速さ。似たり。ひまく。孫權が左右す。宋謙。賈華。戦をまく。ひよ。坐はばけ。打と打けまく。

樂進馬を回へたりと宋護兵の持たる鎧を取のばひ。と
て。李典襲ちてあひて。引回へて兵と射る。その矢來
撃。胸板と射透け。馬すくさうたゆた洛て死んだり。大史
慈はあが張遼と戦ひ。後二人の馬と落らでうそ。
ども。だく馬を回へ走り。バ張遼大勢を攻る。
うち吳の勢をぐみだき。四角八方へ走り。張遼へ
孫權と自ら馬を乘へ追討。ようりたゞまあるく。人
々。一彪の軍馬。うかうか。討と士威と震え。され
ば張遼兵を收め。城中へ回り。うたのと。孫權と
程普あり。生手をよけて。張遼を城中へ追ふ。敗軍が
ひく本陣を回り。ル。孫權討たる兵をね。大將宋
射殺されたる。涙をあびて。あざれ哀。長史張
緜はさへて曰く。君は御年壯であつて。強暴の勇と
たの。血氣の戦ともの。陣のまへて。敵の大将を討
て。寒。分取高名。威をたまふ。まきをれむ。偏將
軍の志。君の志。あふ。君の敵と輕ひ。ド。よれ。ひま
を。王霸の計をあひ。今日宋護が敵の矢。命を
うへあひ。君の敵と軽ひ。ド。よれ。ひま。君の敵
り。よく。慎。人のひと。とひ。君の敵と軽ひ。ド。よれ。ひま
あり。過あり。まよ。あひ。と。がや。と。かく。あひ。と。大將太
史慈出來り。今日味方打負の人。其が手下を定とす



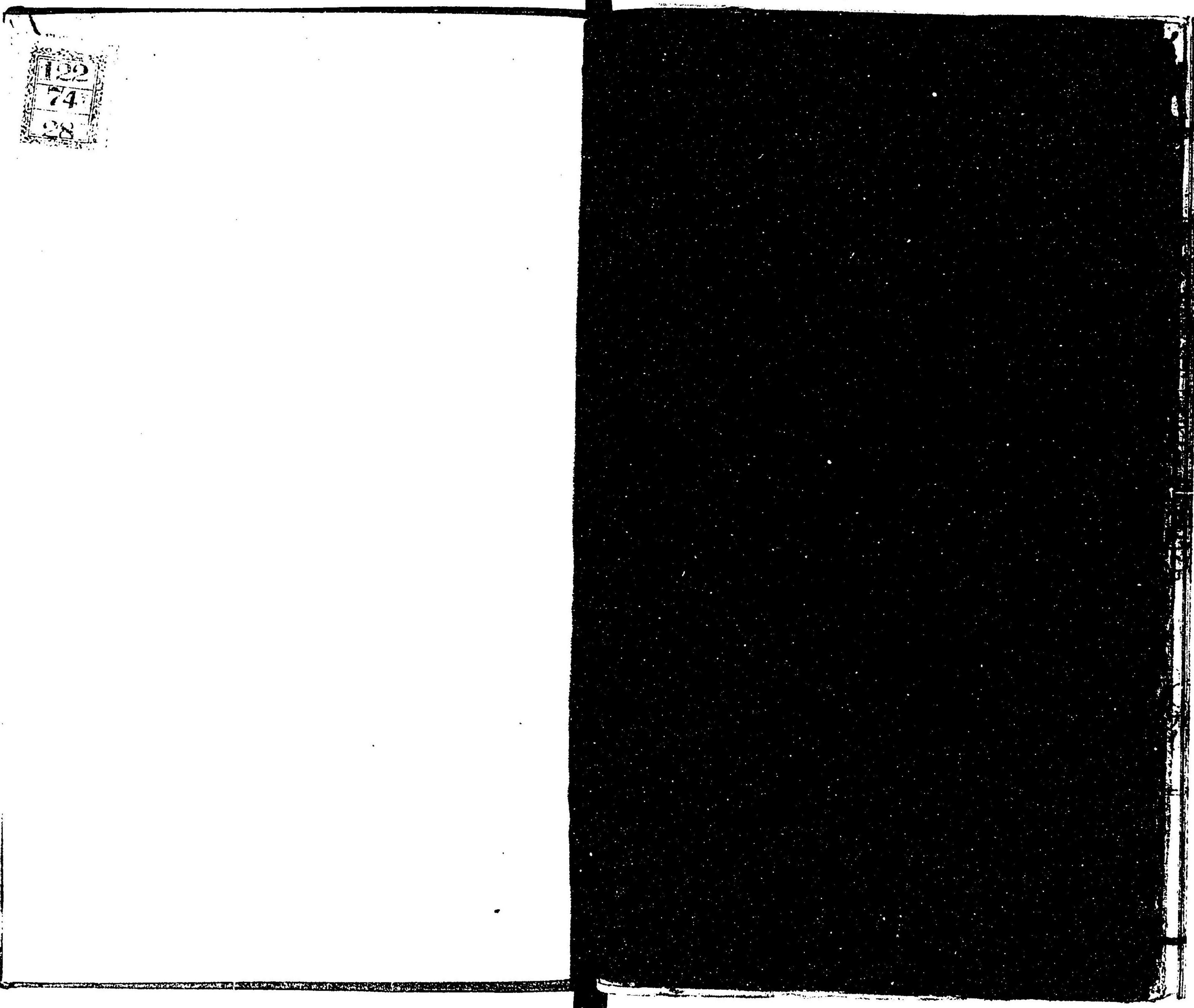
るゝあり。幸運は張遼が馬飼と兄弟あり。まことに。今夜
城中より火の手をあげて合戦である。ひそかに張遼が首を取
んとする。終りて某は五千余騎を借りて時刻もあらず合戦を
城中へ攻入して宋襄が仇を報せんとひそかに孫權が曰く。そ
の次定め。今何より。太史慈が自ら攻め合淝城へ向ひ入
たり。諸葛瑾が曰く。張遼は一男の男であつた。智深く計を立
てあらうと用ひ。しかし。うるさい。むだで無用あり。太史慈が曰く。城
中の勢は。今日の軍を勝ちあつて。あらがふと油斷をして。内
外より。撃破され。忽ち城を乗取られ。再三戦ふ。口惜くもあつた。
孫權も人の肉よ。今日大將を討つたので。口惜くもあつた。の
うふみを報ぜて。卒は五千余騎をもつて太史慈を討
け。その日の夜。既定。かとす。太史慈と同郷の好み。張
遼が勢をさげて。城中へ志のがてり。馬飼と兄弟あり。張
遼は太史慈と二人「所をすり合」。とき。太史慈將軍と合戦を
せしやうり。今夜をあらがふ。と。おき。と。計をあ
さく。とり。馬飼。馬飼や。と。たののを。本陣と。わざと。おき。と。
夜中。うき。おき。と。おき。と。たの。章。と。まじで。敵所を。大き
け。走り。ちり。と。隸友人あり。と。さび。と。城中を。まじ。と。おき。と。
上と下と。騒動。と。ふゆと。おき。張遼と。まじ。と。一門を。ま
じ。と。走り。と。決定。と。喜び。たの計を。れ。だ。妙。あり。と。
日の晉と。待居たり。張遼が。たの日の合戦を行。勝。城
て諸軍を恩賞を。やど。今夜の甲。と。却。ご。ね。ある。

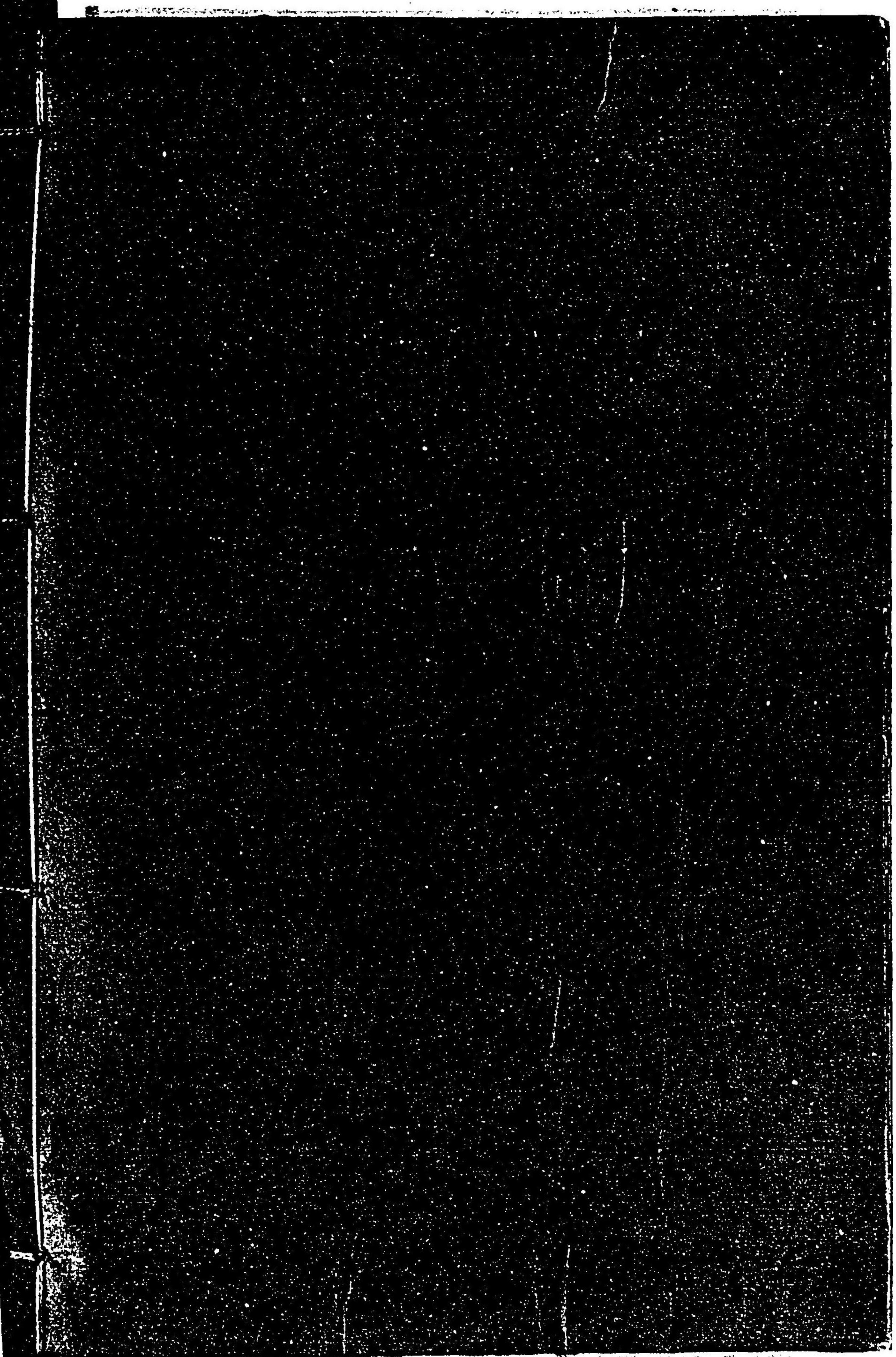
工事の用ひ。用ひ。急のあひ。さうだと鶴たつ
乃は諸將問ひ。今日吳の勢大て敗れ。遠く逃が
ふ。あらゆる用ひ。ある用ひ。あらゆる用ひ。
張遼ちあつちあつ。自じと曰い。御辺連ごへんれんの志しあるを大將
たる道へ勝かつと喜よし。負まつたるを憂うれ。今夜も
一油断いわせぬ。吳の勢し虚うそのとて夜よ弱よ。かくとやくとやくとやく
う振ふりと得と今夜よ別べ。夜よ廻まわすとせうとせうと下さ知
一ひと。あ物ものの具ぐを解わかと居ゐたる。それか若わらを忽こゝち
後の陣屋じんや。火ひとと。一人の音おと。隸り友とも人ひととてりり由
ゑゑ。城じ中なか。馬まの音おとと告おほ來き。麻まのとと。張
遼ちあつちあつ。馬まの音おとと打うち出だす。左右うしゆの人ひと。張

遼ちあつちあつ。馬まを立たて。城じ中なかを走はり。喊けんの声こゑを飛とべ。うろ
ぐ。生いきよよとと。張ちあつ遼ちあつ。自じとと。城じ中なかとと。
喊けんと造つり。城じ中なかとと。のあらあら。みみとと。のあらあら。
のあらあら。立たて。軒けんとと。下さ。矢やとと。張ちあつ遼ちあつ。自じとと。城じ中なかとと。
將しょう李り典てん。の定じょうと馬ま銅どうとあがあがり来る。張ちあつ遼ちあつ。そのゆと問たず。丈
立たて。軒けんとと。忽すこち又また城じ外ほか。鼓つづを打うち。鑼なぐをああ。と。
喊けんの聲こゑ。俄さかく。張ちあつ遼ちあつ。自じとと。吳ごの勢し。う縁えんて合あ図と。定じょうめ
内外うわい。攻こうム。計けい。のああ。敵てきの計けい。謀ぼうとと。却むかりとと。計けいを
用もちふ。城じの内うち。人の手てをああげ。よ隸り友とも人ひとあり。と
あり。門門と橋は。橋はと渡わた。太史慈たいしを喜よし。

ま。が。う。直。先。手。を。み。兵。下。矢。と。城。の。上。す。を。と。
ま。う。一。声。の。鉄。炮。と。あ。う。を。わ。れ。矢。倉。の。上。壠。よ
り。矢。と。射。る。と。雨。の。ど。く。大。木。大。石。と。あ。げ。う。け。う。が。太。史。慈
さ。き。あ。り。ぞ。た。り。全。身。を。射。立。ま。た。ち。せ。暮。の。毛。す。る
お。が。志。が。う。後。さ。う。李。典。舉。進。討。て。生。力。ま。う。吳。の。勢。殘。少。よ
あ。り。さ。ひ。ぐ。走。り。ル。う。が。吳。の。陣。を。近。く。あ。れ。て。陸。遜。董。襲
ひ。そ。を。せ。き。な。り。城。中。の。勢。を。追。回。き。吳。主。孫。權。大。後
悔。し。太。史。慈。が。痛。手。を。負。か。き。と。え。そ。も。れ。が。あ。げ。き。み。か。か。を
リ。ま。く。張。昭。さ。び。軍。を。收。め。と。も。も。孫。權。も。ま。志
な。ぐ。八。陣。屋。を。ま。う。と。船。よ。取。無。南。徐。の。閻。刀。ま。で。回。り。れ
ば。太。史。慈。が。病。を。あ。ざ。危。い。き。あ。ち。張。昭。を。遣。へ。と。安。否。我
遂。だ。ま。く。ぞ。ひ。あ。づ。死。ま。る。や。と。り。ハ。愁。り。忽。然。と。と。代
た。す。と。年。四。十。歳。あ。る。孫。權。深。く。あ。げ。き。あ。い。南。徐
の。北。固。山。の。下。を。葬。り。その。子。太。史。亨。と。あ。く。き。で。養。る。

續奉通俗三國志四編卷之四





089236-033-0

122-28

絵本通俗三国志

葛飾 戴斗／画

〔刊年不明〕

DBM-0432



繪本通俗三國志

目録
四

122
74
28